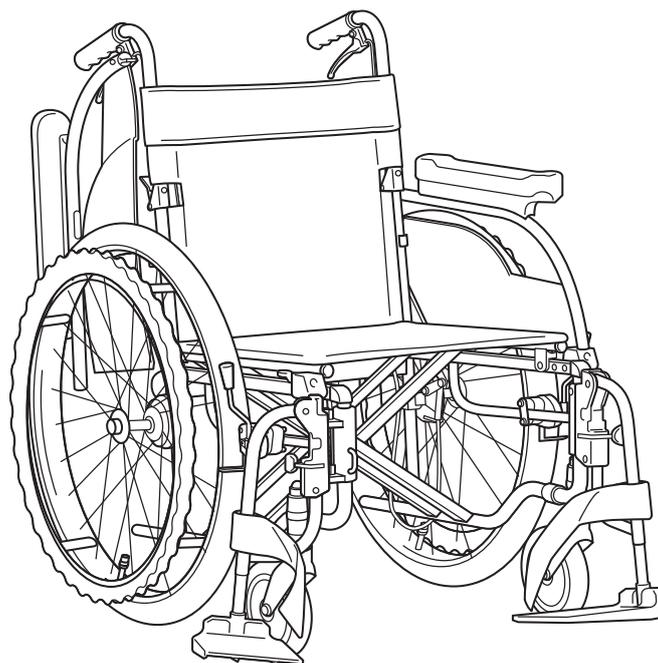


取扱説明書

車いす KK-T50,T51,T54,T55,T60シリーズ

保証書付

7F08686800A6



まえがき

このたびは、車いすKK-T50,T51,T54,T55,T60シリーズ(以下、車いす)をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

この「取扱説明書」には、車いすを安全にお使いいただくための注意事項と使用方法などを記載しています。

- 車いすをお使いになる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全な取扱方法を理解してください。
- この「取扱説明書」はお読みになった後も、いつでも見られる場所に保管してください。(バックサポート後のポケットに入れておいてください)
- お買い上げの製品は、改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- 動作範囲・寸法・角度・質量などの数値の記載がある場合、その数値には多少の誤差が含まれます。特別なものを除き、この「取扱説明書」では表示を見やすくするため、約・およそといった言葉を省略しております。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または直接パラマウントベッドまでお問い合わせください。

販売元：パラマウントベッド株式会社
製造元：株式会社松永製作所

目次

はじめに	1
安全にお使いになるためのご注意	2
型式別寸法一覧	4
各部の名称	4
型式別機能一覧	5
対応型式について	6
機能説明	6
駐車用ブレーキの使用方法	7
自走用/介助用 標準型車いすの使用方法	8
広げ方	8
折りたたみ方	9
安全にお使いになるための使用方法	10
制動用ブレーキ	10
フットサポートの調整	10
フット・レッグサポートスイングアウト	12
アームサポート跳ね上げ・着脱	12
リクライニングタイプ車いすの使用方法	14
広げ方	14
折りたたみ方	15
安全にお使いになるための使用方法	16
バックサポートリクライニング	16
フット・レッグサポートエレベーター	17
アームサポートの着脱	17
使用方法	18
ご使用の前に	18
乗り方・降り方	19
動かし方	20
介助の仕方	21
外出時の注意	22
車いすのオプション	23
JIS規格について	24
空気圧管理不要タイヤ メンテナンス方法	26
もしこんなトラブルが発生したときは	27
車いすのお手入れの方法	28
アフターサービスについて	29
保証書	

はじめに

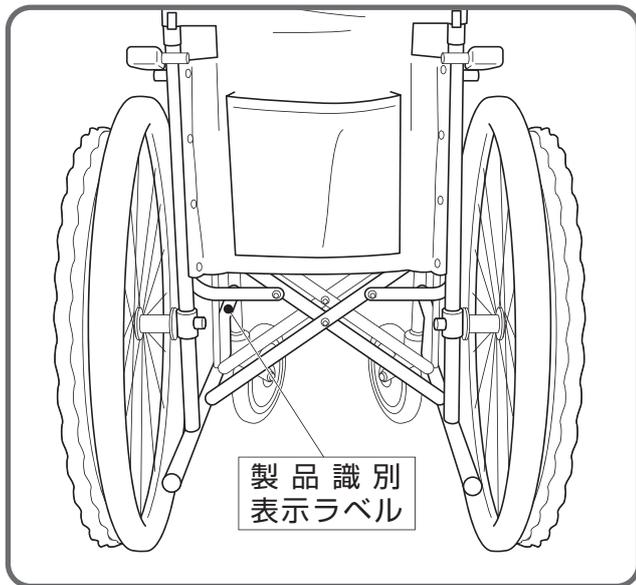
使用目的 この車いすは、ご家庭、医療施設および高齢者施設で使用されることを目的に作られています。ご利用になる方の体格や身体の状態にあった車いすをお選びいただき、使用してください。

保証書が付いておりますので、紛失しないように大切に保管してください。

購入された製品の型式をご確認ください。
型式は、下記位置に表示してあります。

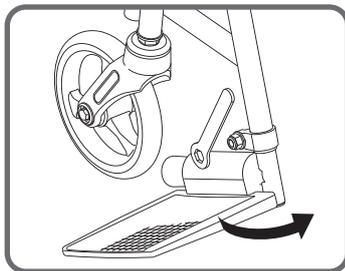
次にP.5の型式別機能一覧にて
お探しください。

付属品

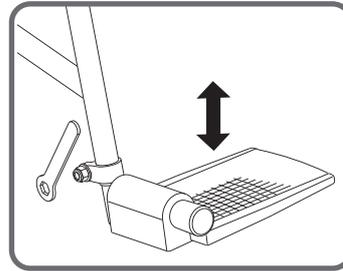


●お買い上げ時(梱包時)には、フットサポートが収納されていますので、
ご使用前に前方へ回転させてください。

対応型式 A ※対応型式は、P.5の「型式別機能一覧」にてご確認ください。



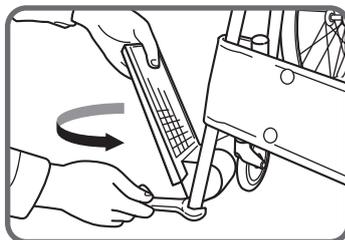
フットサポートを外側に倒し、付属品のスパナで、パイプ横のナットを少し緩めてください。(フットサポートが動くまで)



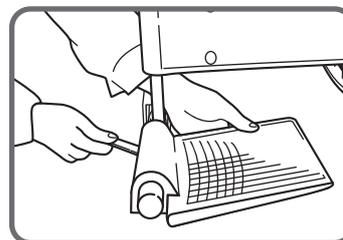
フットサポートを回転し、高さ調整(P.10参照)を行いパイプ横のナットを締めてください。

※適正トルク
12.5Nm

対応型式 B D ※対応型式は、P.5の「型式別機能一覧」にてご確認ください。



付属品のスパナで、先端ボルトを少し(フットサポートが動くまで)緩めてください。



フットサポートを回転し、高さ調整(P.10参照)を行い先端ボルトを締めてください。

※適正トルク
12.5Nm

安全にお使いになるためのご注意



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく内容の説明



この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。



この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。

警告

(禁止)



しては
いけない

- 故障、異常のあるときは、使用しないでください。
転倒・転落事故等の原因となります。
- 改造しないでください。
改造によって車いすの部品の破損、脱落などで安全性が低下して転倒・転落事故等の原因となります。
- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
駐車用ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動き、事故等の原因となります。
また、タイヤがパンクする原因となります。
- フットサポートの上に乗って、乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
車いすがバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。
転倒・転落事故等の原因となります。
- バックサポート折りたたみのロックレバーにかばんなどを引っ掛けないでください。

(強制)



必ずして
いただく

- 道路の通行は、必ず右側を通行してください。(歩道がある場合は歩道を通行してください。)
交通法規を守って走行してください。(車いすは歩行者扱いです。)
- 坂道の登り下りの時は、介助者の方が支えて行ってください。
スピードが出たり、バランスが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。
- バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、完全に出ていることを確認してください。
急にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。
車いすが動き、転倒・転落事故等の原因となります。
- 側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。
車輪が溝にはまり、転倒・転落事故等の原因となります。
- リクライニングの角度調整をする時は、駐車用ブレーキをロックしてください。
車いすが動き、転倒・転落事故等の原因となります。
- リクライニングレバーを左右同時に握りながら角度調整してください。
転倒・転落事故等の原因となります。
- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。
フットサポートが脱落し事故等の原因となります。
- フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。
路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、転倒・転落事故等の原因となります。
- スイングアウトを戻したときは、ロックが確実にされているか確認してください。
足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。
- フット・レッグサポートのスイングアウト操作時や、着脱・取り付けの操作時には、手をはさまないように注意してください。
- アームサポート跳ね上げを戻したときは、ロックレバーのピンが完全にロックされていることを確認してください。
転倒・転落事故等の原因となります。
- アームサポートを取り付けたときは、完全にロックしている事を確認してください。
転倒・転落事故等の原因となります。

注意

- バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
車いすが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすを上げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。

(禁止)



しては
いけない

- 介助者の方は、制動用ブレーキで急ブレーキをかけないでください。
車いすに乗っている方が前方へ転倒・転落する恐れがあります。
- アームサポート跳ね上げの場合は、アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。
ケガ、転倒・転落事故等の原因となり大変危険です。
- アームサポートを跳ね上げた状態で、アームサポートに力を加えないでください。
破損の原因となります。
- タイヤを持って車いすを操作しないでください。
ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。
- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
摩擦で、手にケガをする恐れがあります。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。
バランスが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
手や指をはさんで、ケガをする原因となります。
- バックサポートパイプやグリップのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。
バックサポートパイプが曲がったり折れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。
- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
使用者が車いすから転倒・転落事故等の原因となります。
- バックサポートが折りたたみの場合は、使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持ち上げないでください。
パイプが外れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすを横向きに倒して、上に物を置かないでください。
重みで車輪フレームが曲がったりして、故障の原因となります。
- バックしながら、急停止しないでください。
転倒・転落事故等の原因となります。
- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。
バランスを崩し、前に転倒・転落事故等の原因となります。
- 火気の近くに置かないでください。
タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。
- リクライニング車いすの連結バー・ヘッドサポート部を持って、走行しないでください。
外れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。
- 介助者の方は、人が乗った状態でリクライニングしたまま、放置しないでください。
バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすで荷物を運んだりしないでください。
- リクライニングした状態でバックサポートの上に乗らないでください。

(強制)



必ずして
いただく

- 車いすを上げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。
パイプが曲がったりして、転倒・転落事故等の原因となります。
- 車いすを折りたたむ際には、バックサポートのポケットの中に物が入っていないことを確認してください。
ポケットの中の物が破損したり、車いすの故障の原因となります。
- 介助者の方は、制動用ブレーキレバーを両側同時にかけてください。
バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。
- 乗り降り、駐車は平坦な場所で行ってください。
車いすが動き、バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。
- 坂道を下るとき介助者は、下り坂の下側に立ち確認しながら後ろ向きにゆっくりと走行してください。
前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故等の原因となります。
- 側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。
車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転倒・転落事故等の原因となります。
- 介助者の方は、移動中に使用者のつま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。
- 介助者の方は、フットサポートに使用者の足が乗っているか確認して走行してください。
- マジックベルト装着機種は、必ずベルトを締めてください。
衝撃などで転落し事故等の原因となります。
- マジックベルトの場合は、糸くずや汚れを取り除いてください。
粘着力が弱くなり衝撃を受けた時外れ転落事故等の原因となります。
- リクライニングの連結バーのノブネジは、確実に固定してください。
外れて、転倒・転落事故等の原因となります。
- リクライニングのヘッドサポートロックを確実にかけてください。
外れて、転倒・転落事故等の原因となります。
- 必ずヘッドサポートを取り付けてご使用ください。
パイプ差込口で手や頭にケガをする原因となります。また、フレーム強度が低下し、破損の原因となります。
- エレベータリングのフットプレートに足が乗った状態で調整する場合は、フットパイプをしっかり支えて行ってください。
ロック解除時に、手をパイプに挟んでケガをする原因となります。
- 保管する場所には注意してください。

型式別寸法一覧

型式	キャスト (インチ)	車輪 (インチ)	前座高 (mm)	後座高 (mm)	シート奥行 (mm)	アーム幅 (mm)	バック幅 (mm)	フット長 (mm) ※2	全長 (mm)	全高 (mm)	全幅 (mm)	折りたたみ幅 (mm)	重量 (kg) ※3
KK-T500HB/T503HB※1	7	24	470	440	400	235	380	350~	1050	880	620	330	17.6/-/-/18.1
KK-T510MB/T513MB	6	22	430	400	400	250	420	350~	1020	885	650	320	13.8/-/-/14.3
KK-T510LB/T513LB	6	22	380	360	380	250	420	285~	950	850	650	330	13.6/-/-/14.1
KK-T540M*/T541M*/T543MB	6	22	430	400	400	250	420	350~	1020	890	670	350	15.2/15.7/17.1/15.7
KK-T540L*/T541L*/T543LB	6	22	380	360	380	250	420	285~	950	860	670	360	14.7/15.2/16.7/15.2
KK-T550M*/T551M*/T553MB	6	22	420	390	400	250	375	335~	955	840	630	340	16.6/17.1/18.5/17.1
KK-T545M*/T546M*	6	16	430	400	400	250	420	350~	1015	890	595	300	-/14.3/15.3/-
KK-T555M*/T556M*	6	16	420	390	400	250	375	335~	960	845	560	270	-/15.7/16.7/-
KK-T606HB	7	16	460	435	400	240	840	400~	1160	1275	560	240	20.9

※JIS T 9201:2016による表記になっております。(従来と計測方法が異なる部分があります。)

※1:シート幅420です。その他機種はシート幅400です。

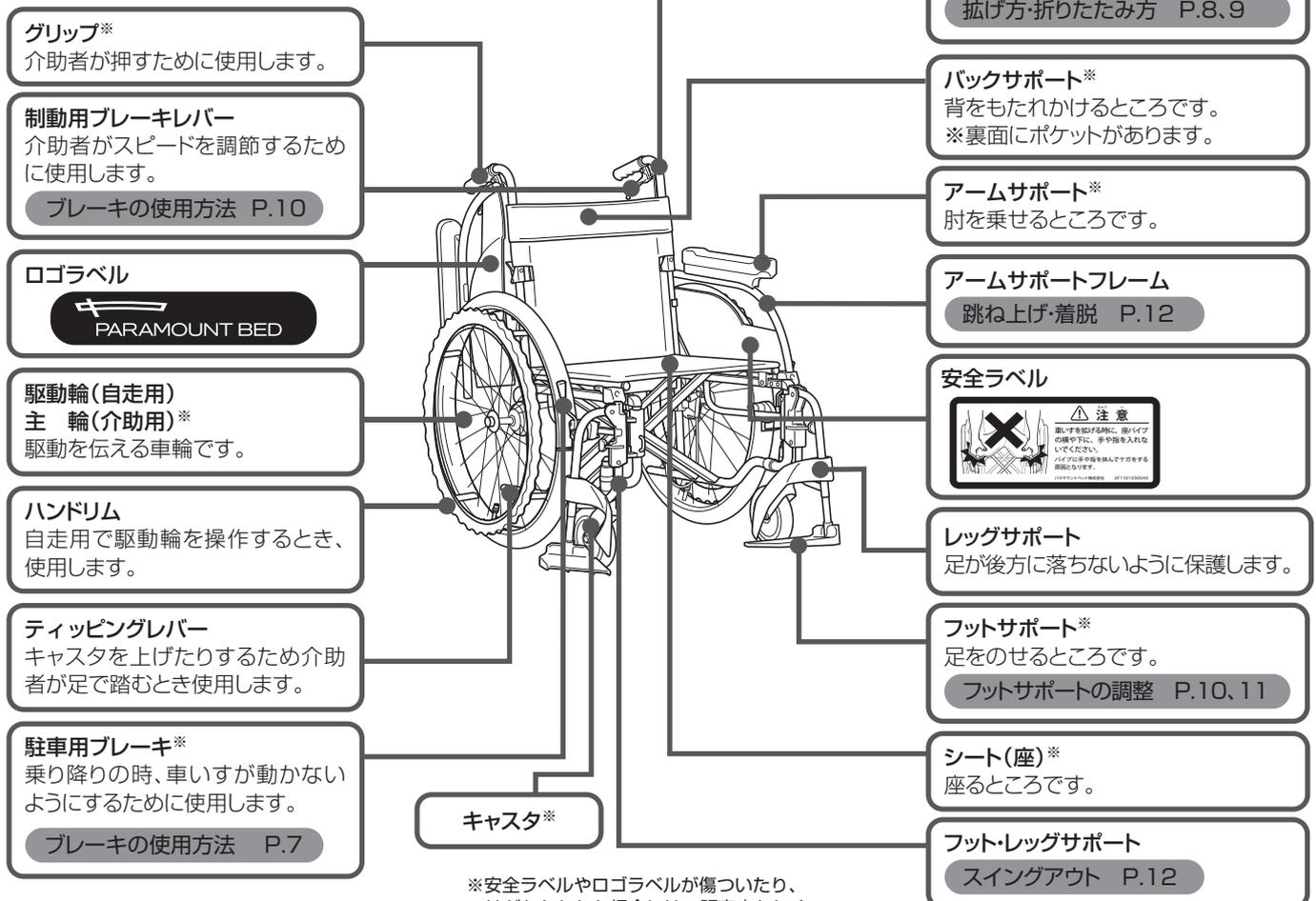
※2:フット長=フットサポートシート間の距離

※3:レザー(エアタイヤ)/クッション(エアタイヤ)/クッション(ノーバンク)/レザー(ノーバンク)の重量の順

各部の名称

自走用/介助用標準型

※イメージ図(KK-T550M*、T551M*、KK-T553MB)



※安全ラベルやログラベルが傷ついたり、はがれたりした場合には、販売店もしくはパラテックノールセンターから新しいラベルを取寄せ、貼り直してください。

型式別機能一覧

型式	タイプ	バックサポート	アームサポート	フット・レッグサポート	ブレーキ		型式 対応表
			機能	機能	駐車用	制動用	
KK-T500HB/T503HB	自走	固定	—	—	タックル	—	A
KK-T510MB/T513MB	自走	固定	—	—	タックル	—	
KK-T510LB/T513LB	自走	固定	—	—	タックル	—	
KK-T540M*/T541M*/T543MB	自走	折りたたみ	—	—	タックル	有	
KK-T540L*/T541L*/T543LB	自走	折りたたみ	—	—	タックル	有	B
KK-T550M*/T551M*/T553MB	自走	折りたたみ	跳ね上げ&着脱	スイングアウト	タックル	有	
KK-T545M*/T546M*	介助	折りたたみ	—	—	タックル	有	C
KK-T555M*/T556M*	介助	折りたたみ	跳ね上げ&着脱	スイングアウト	タックル	有	B
KK-T606HB	介助	リクライニング	着脱	エレベータリング	タックル	—	C
							D

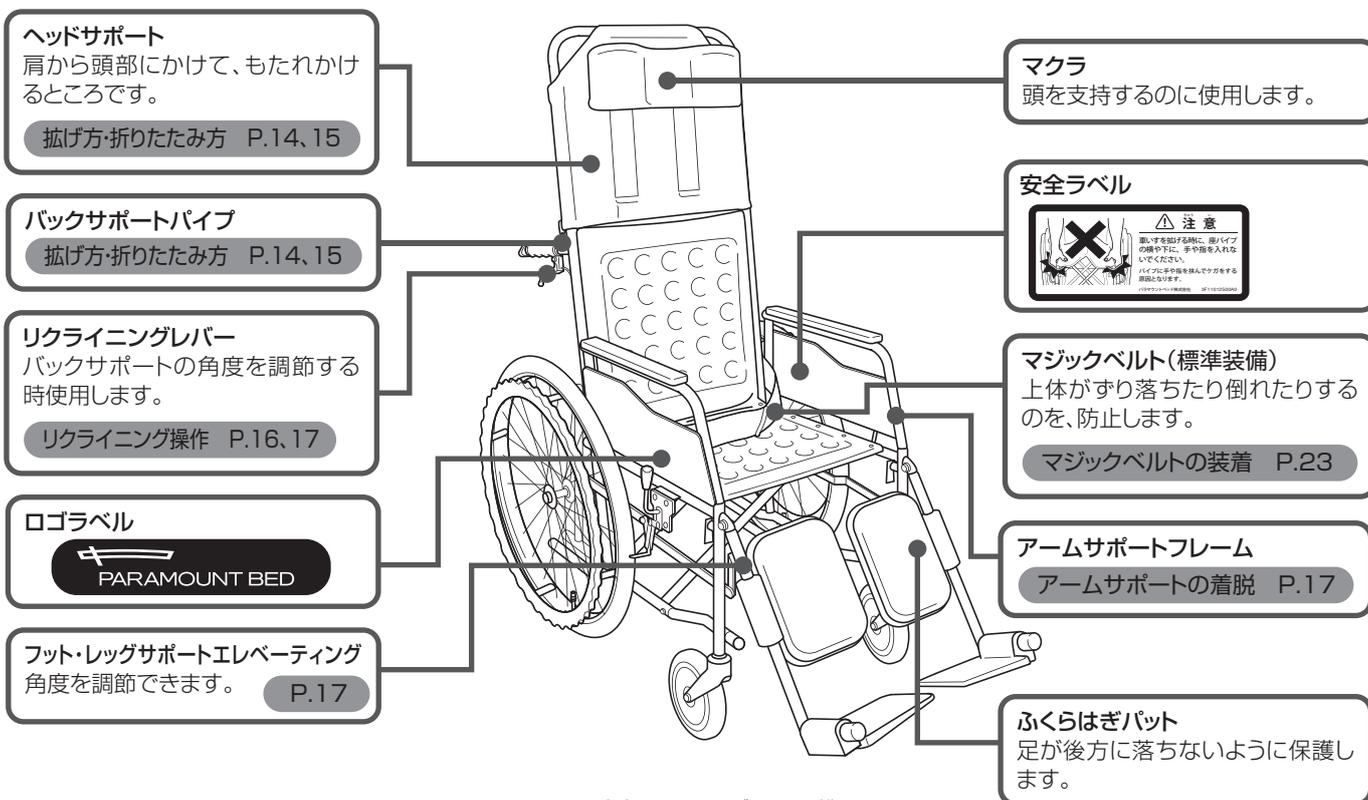
※最大使用者体重は、100kgです。(KK-T606HBは除く)

※KK-T606HBの最大使用者体重は、75kgです。

リクライニングタイプ

※イメージ図(KK-T606HB)

※P.4の※マークの付いた部位は、この機種にも該当します。



※安全ラベルやロゴラベルが傷ついたり、はがれたりした場合には、販売店もしくはパラテクノコールセンターから新しいラベルを取寄せ、貼り直してください。

対応型式について

●各機能の対応型式はP.5の「型式別機能一覧」の対応表にてご確認ください。

① 文中、下記の様な表記があります。

② P.5の型式別機能一覧の対応表で型式を確認してください。
※表記がないものは共通事項となります。

1 **フットサポートの調整**

※対応型式は、P.5の「型式別機能一覧」にてご確認ください。

〈高さの調整〉

対応型式 A

① 付属品のスパナでパイプ横のボルトを少し緩めます。

② 高さを調整し、パイプ横のボルトを締めます。



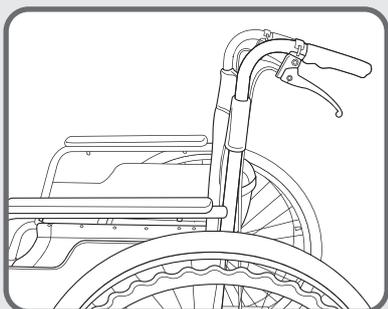
2

サポート機能	フット・レッグサポート機能	ブレーキ		型式対応表
		駐車用	制動用	
—	—	タックル	—	A
—	—	タックル	—	
—	—	タックル	—	
—	—	タックル	有	B
—	—	タックル	有	
跳ね上げ&着脱	スイングアウト	タックル	有	C
—	—	タックル	有	

機能説明

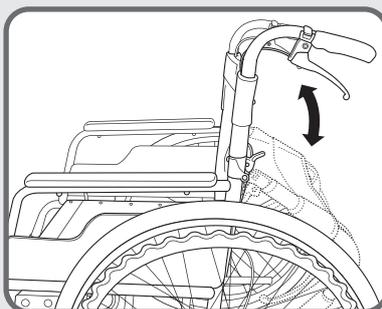
〈バックサポート〉

固定



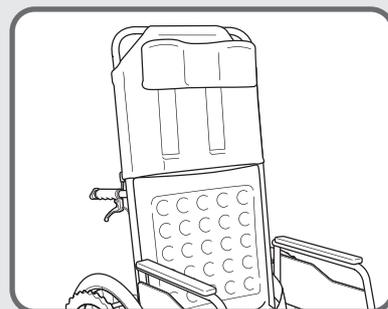
バックサポートパイプが固定です。耐久性に優れています。

折りたたみ



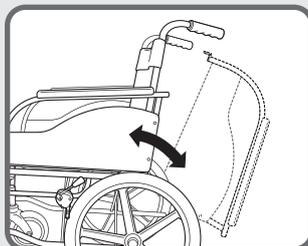
バックサポートパイプを折りたたみすることができ、自動車等への積み込みが容易に行えます。

バックサポートリクライニング



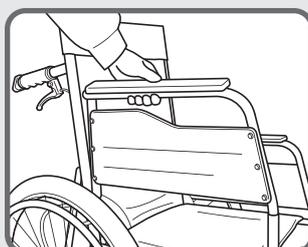
レバー操作によってバックサポートの角度が調節でき、リクライニングが可能です。

〈アームサポート〉



跳ね上げ&着脱

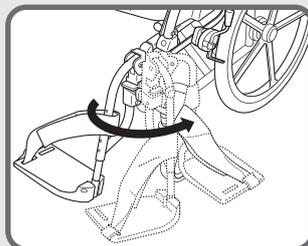
簡単なワンタッチ操作で肘掛けの跳ね上げができます。さらに取り外すこともできます。ベッド等への移乗時に大変便利です。介助の軽減にも役立ちます。



着脱

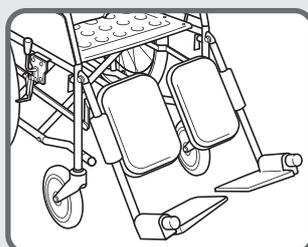
アームサポートを取り外すことができます。ベッド等への移乗時に大変便利です。介助の軽減にも役立ちます。

〈フット・レッグサポート〉



スイングアウト

フット・レッグサポート部が開閉でき着脱可能です。ベッド、便器等への接近が容易です。片手片足操作にも適しています。樹脂製で、操作も簡単です。

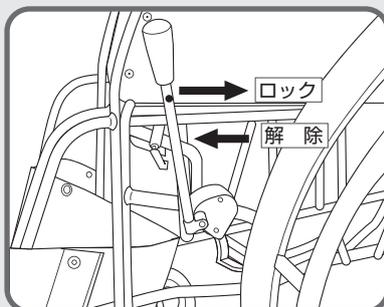
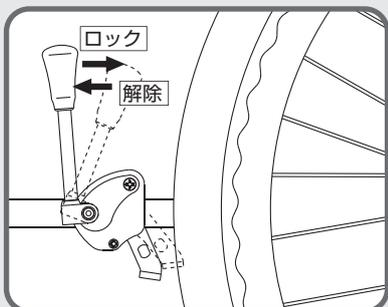
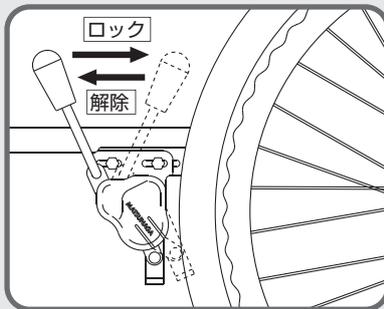
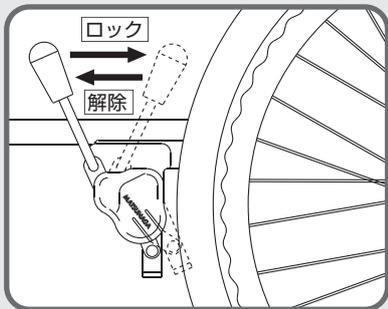


エレベーターング

フットサポートの角度を設定することができます。膝関節の動きに制限のある方や骨折により足を上げた状態にしたい方に適しています。

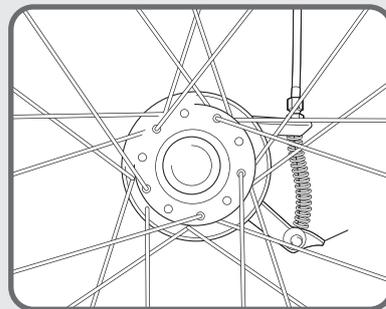
〈ブレーキ〉

駐車用ブレーキ

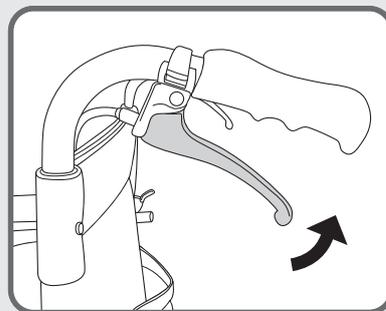


駐車用のブレーキです。乗り降りの際に車いすが動かないようにするために使用します。

制動用ブレーキ

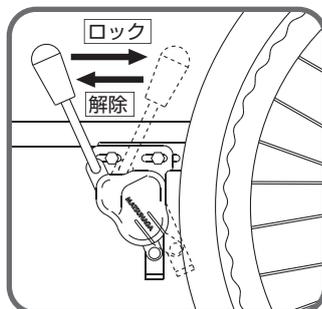
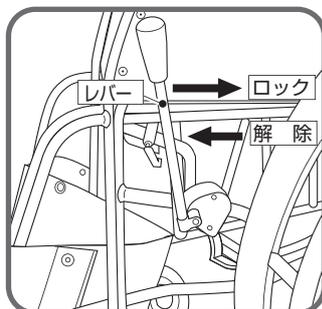
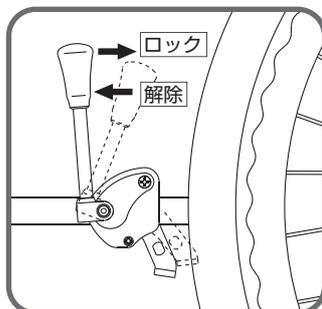
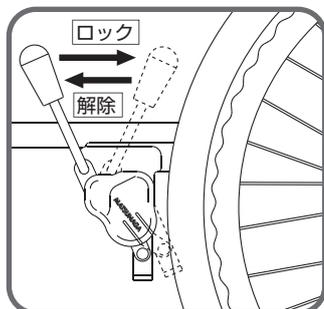


介助者のための制動用ブレーキです。走行中や坂道で速度を調整する際に使用します。



駐車用ブレーキの使用方法

- 駐車用ブレーキレバーを後方に引くとロックします。
- ロックした方向と反対に押し解除します。



警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。(P.18 で使用の前に参照)
(車いすが動き、事故等の原因となります。)

してはいけない

警告

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

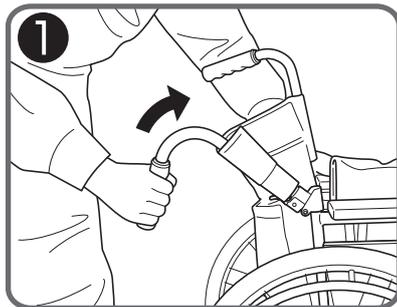
自走用/介助用 標準型車いすの使用方法

拡げ方

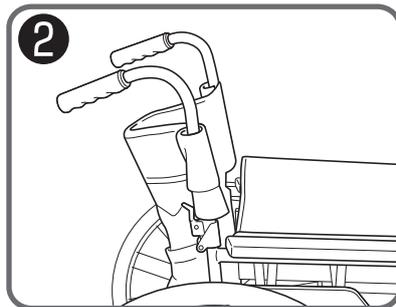
バックサポート固定の場合は、手順③から行ってください。

*バックサポート折りたたみを起こす際は、必ず車いすを折りたたんだ状態で行ってください。
(拡げた状態で行うと、バックサポートがバックサポートパイプに引っ張られ、ロック出来なくなります。)

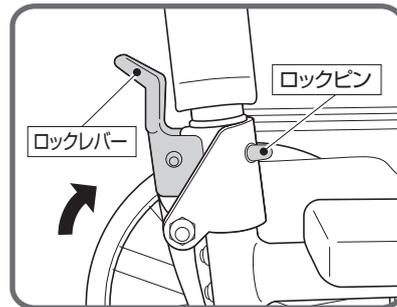
① グリップを持ち、矢印方向に、持ち上げます。



② バックサポートを両側起こします。



ロックレバーを矢印方向に起こします。



警告

●バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、完全に出ていることを確認してください。
(急にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

注意

●バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
(車いすが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。)

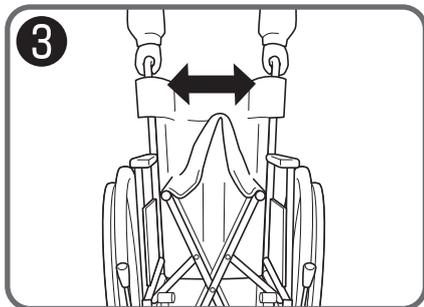
してはいけない

警告

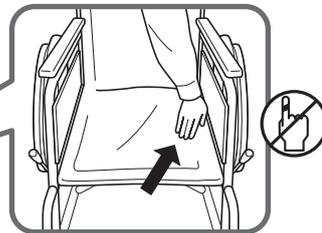
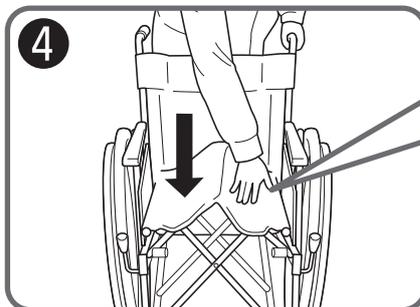
●バックサポート折りたたみのロックレバーに、かばんなどを引っ掛けないでください。

してはいけない

③ 車いすの後方に立ち、左右のグリップを持って両側に拡げます。



④ 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、車いすが拡がります。



※手・指に注意

注意

●車いすを拡げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
(パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。)

してはいけない

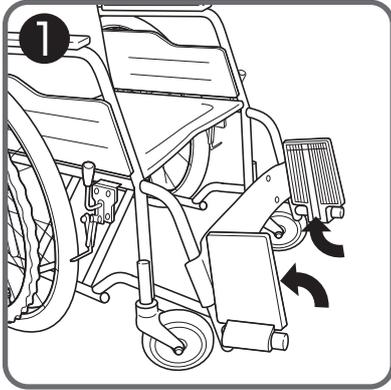
注意

●車いすを拡げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。
(パイプが曲がったりして、転倒・転落事故等の原因になります。)

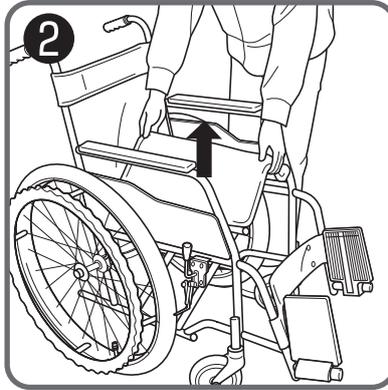
していただく

折りたたみ方

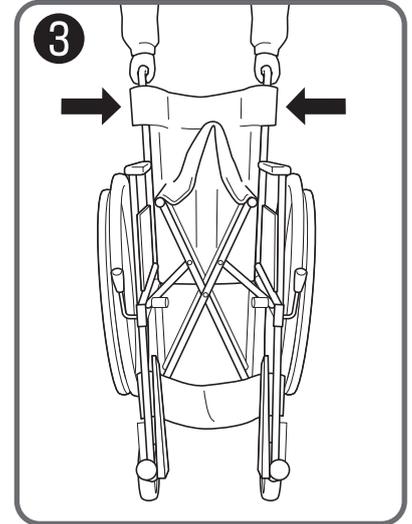
① フットサポートを矢印方向に回転させて上げます。



② シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げます。

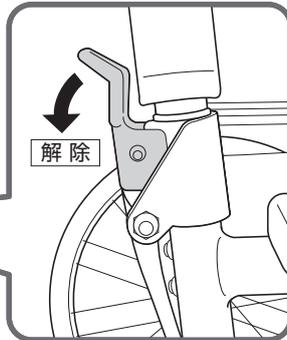
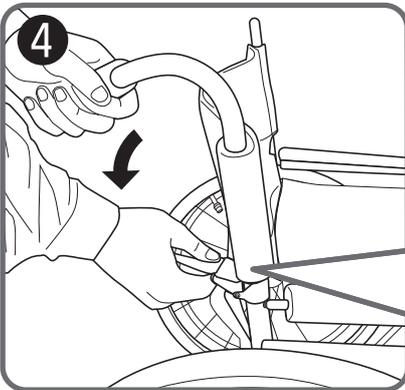


③ 左右のグリップを持ち内側にたたみます。

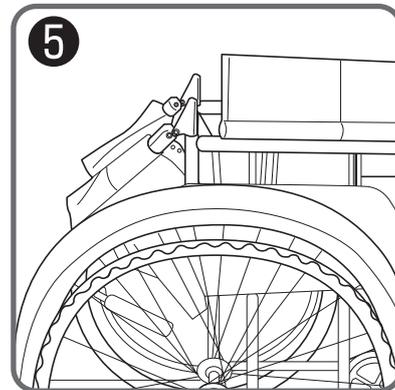


バックサポートが折りたたみの場合は、次の手順を行うとさらに小さく折りたたむことができます。

④ グリップを片手で持ち、ロックレバーを後方に倒し、バックサポートを倒します。



⑤ バックサポートを両側後方に倒します。



⚠ 注意

- 車いすを折りたたむ際には、バックサポートのポケットの中に物が入っていないことを確認してください。
(ポケットの中の物が破損したり、車いすの故障の原因となります。)

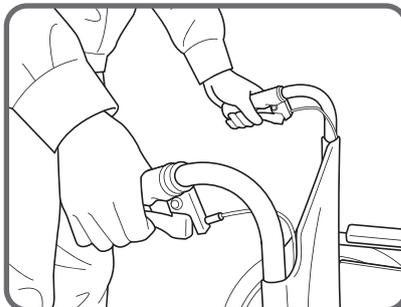
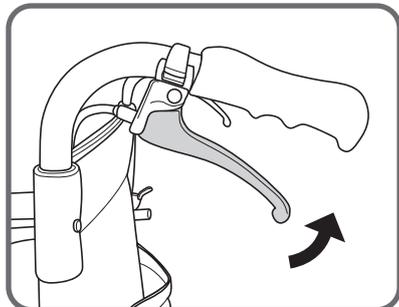
していただく

安全にお使いになるための使用方法

制動用ブレーキ

※対応型式は、P.5の「型式別機能一覧」にてご確認ください。

- レバーを握るとブレーキがかかります。
- レバーを離すと解除します。



介助者の方が走行中や下り坂での速度減速及び停止に、ご使用ください。

⚠ 注意

- 介助者の方は、制動用ブレーキレバーを、両側同時にかけてください。
(バランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

⚠ 注意

- 介助者の方は、制動用ブレーキで急ブレーキをかけないでください。
(車いすに乗っている方が前方へ転倒・転落する恐れがあります。)

してはいけない

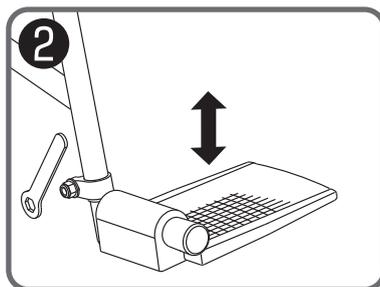
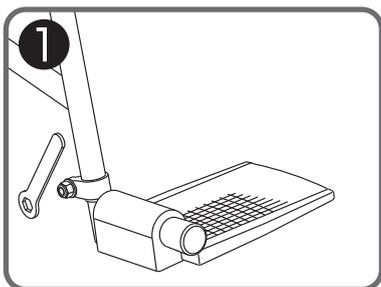
フットサポートの調整

※対応型式は、P.5の「型式別機能一覧」にてご確認ください。

〈高さの調整〉

対応型式 A

- ① 付属品のスパナでパイプ横のナットを少し緩めます。
- ② 高さを調整し、パイプ横のナットを締めます。



使用工具 ・スパナ

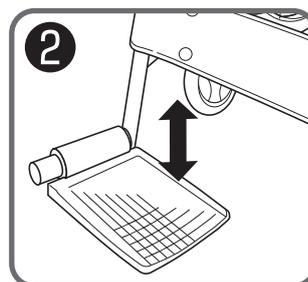
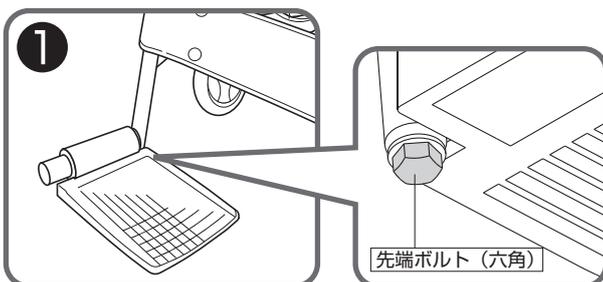
⚠ 警告

- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。
(フットサポートが脱落し事故等の原因になります。)

していただく

対応型式 B D

- ① 付属品のスパナで先端ボルトを少し緩めます。
- ② 高さを調整し、先端ボルトを締めます。



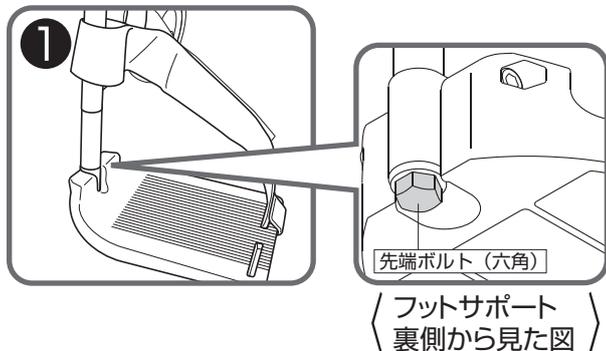
フットサポート
裏側から見た図

対応型式 A B D

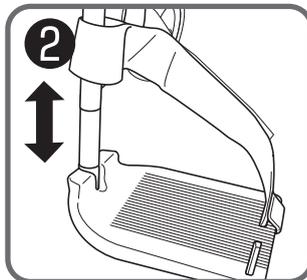
※適正トルク 12.5Nm

対応型式 C

① 付属品のスパナで
先端ボルトを少し緩めます。

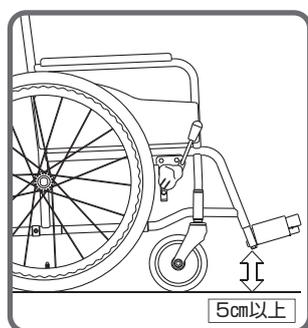


② 高さを調整し、
先端ボルトを締めます。



使用工具 ・スパナ

※適正トルク 12.5Nm



警告

- フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。
(路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いす
が止まり、転倒・転落事故等の原因になります。)

していただく

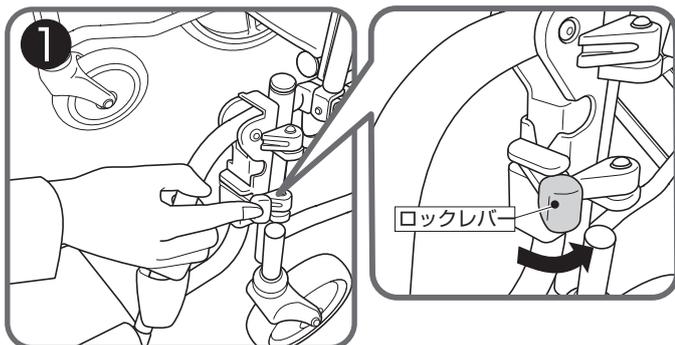
フット・レッグサポートスイングアウト

※対応型式は、P.5の「型式別機能一覧」にてご確認ください。

- フット・レッグサポートをスイングアウト(外開き)したり、取り外すことによりトイレ・ベッド等への乗り移りがしやすくなります。介助の場合には、足元が広くなり、移乗動作が楽に行えます。また片足こぎ操作する時には、取り外すことにより足元が広がります。

対応型式 **C**

- ①ロックレバーを押し、ロックを解除します。

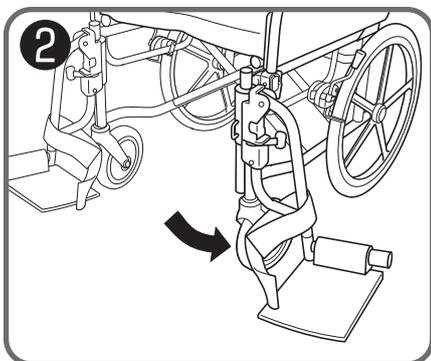


警告

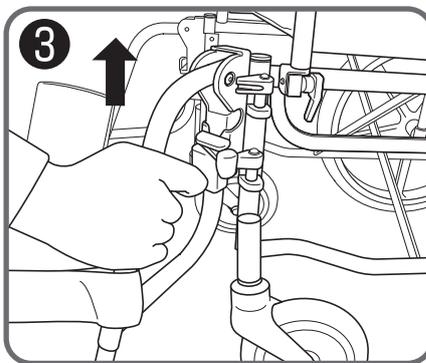
- スイングアウトを戻したときは、ロックが確実にされているか確認してください。(足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。)

していただく

- ②レッグサポートを開くように外側に回転させます。



- ③レッグサポートを取り外すときは、外側に回転した状態から上に持ち上げてください。



注意

- スイングアウトや着脱・取り付け操作時に、手をはさまないように注意してください。

していただく

アームサポート跳ね上げ・着脱

※対応型式は、P.5の「型式別機能一覧」にてご確認ください。

アームサポートの跳ね上げ

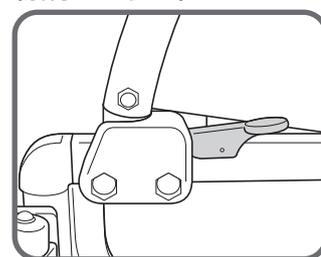
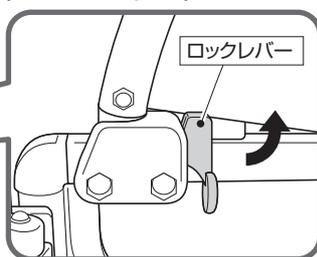
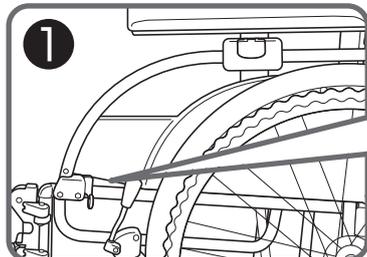
対応型式 **C**

- 両側のアームサポートが後方に跳ね上がりますので、横からの乗り移りがしやすくなります。介助の場合にも、アームサポートが邪魔にならず、楽に行えます。

- ①ロックレバーを矢印方向に起こします。

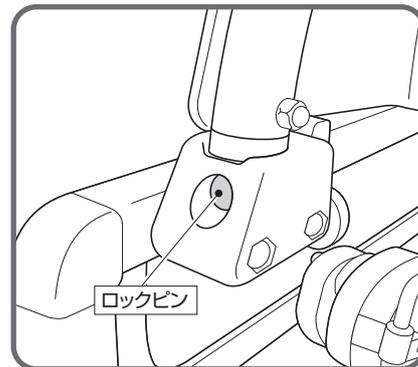
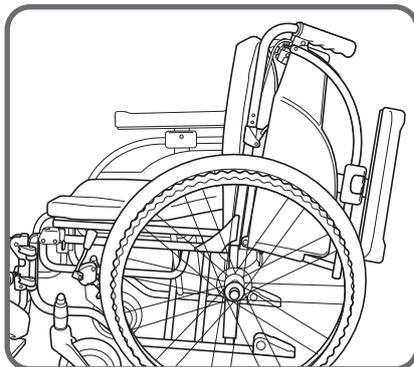
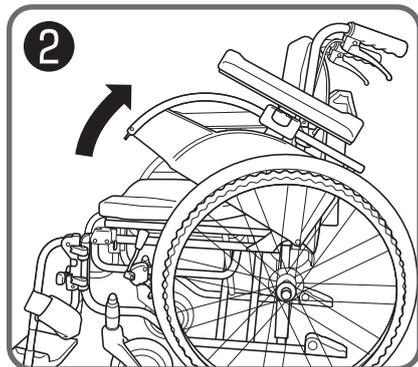
(ロックした状態)

(解除した状態)



②アームサポートを後方に上げます。

(跳ね上げた状態)



警告

- アームサポート跳ね上げを、戻したときは、ロックレバーのピンが完全にロックされていることを確認してください。(転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

注意

- アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。(ケガ、転倒・転落事故等の原因となり大変危険です。)

してはいけない

注意

- アームサポートを跳ね上げた状態で、アームサポートに力を加えないでください。(破損の原因となります。)

してはいけない

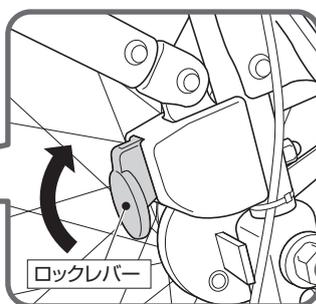
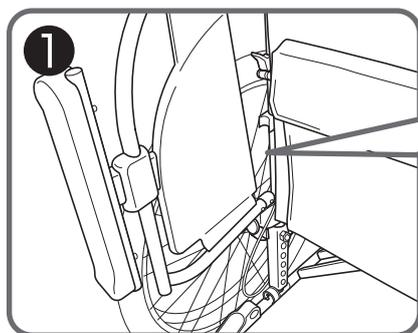
アームサポートの着脱

※対応型式は、P.5の「型式別機能一覧」にてご確認ください。

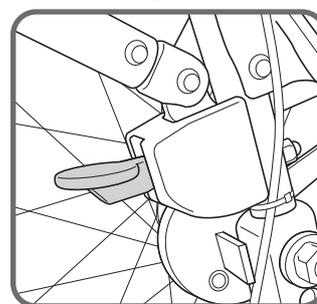
対応型式 C

- アームサポートの跳ね上げに加えて、取り外すこともできます。P.12、13を参照して、アームサポートを後方に跳ね上げてください。

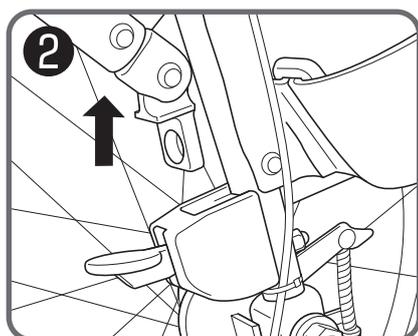
①ロックレバーを矢印方向に起こします。



(起こした状態)

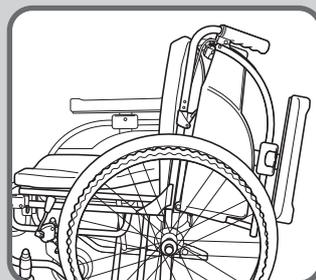


②上に持ち上げて外します。

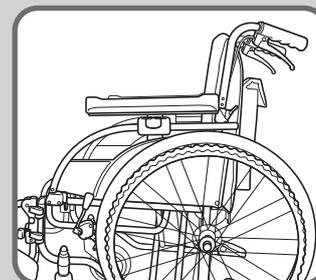


●取り付ける場合

- ①後方のロックを確認してください。



- ②アームサポートをおろし、ロックを確認してください。



注意

- アームサポートを取り付けたときは、完全にロックしていることを確認してください。(転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

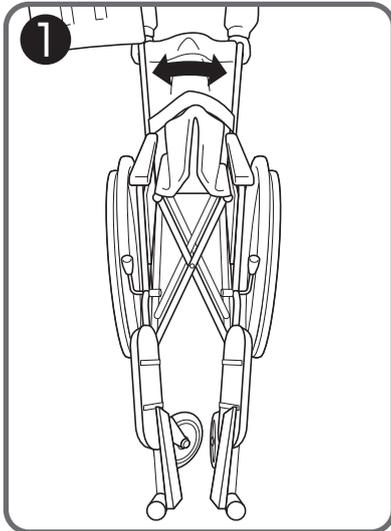
リクライニングタイプ車いすの使用法

拡げ方

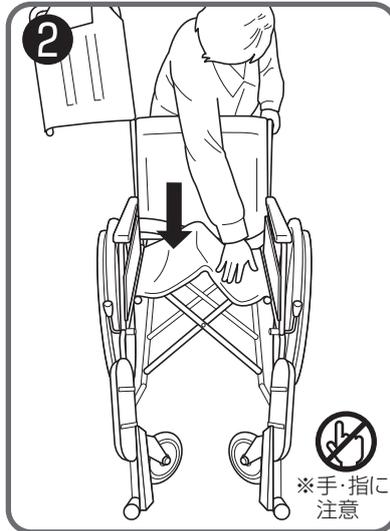
※対応型式は、P.5の「型式別機能一覧」にてご確認ください。

対応型式 D

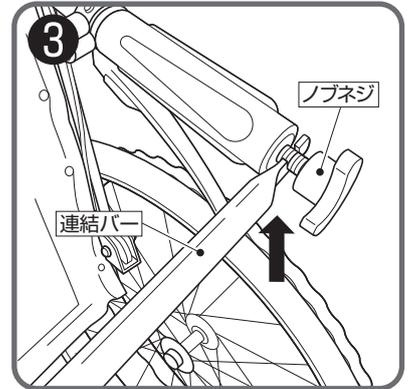
① 車いすの後方に立ち、左右のグリップを持って両側に拡げます。



② 片側のグリップを手で持ちシートを手で下に押し下げるとシートが拡がります。

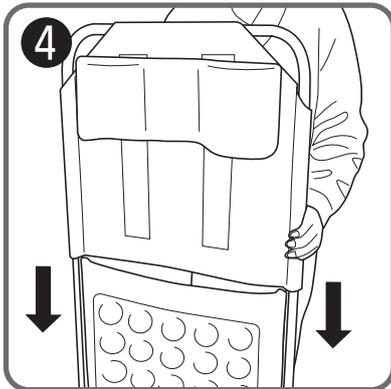


③ 連結バーをノブネジで固定します。

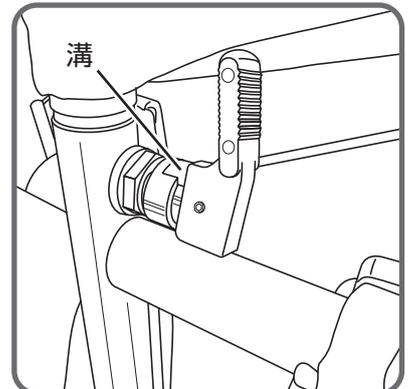
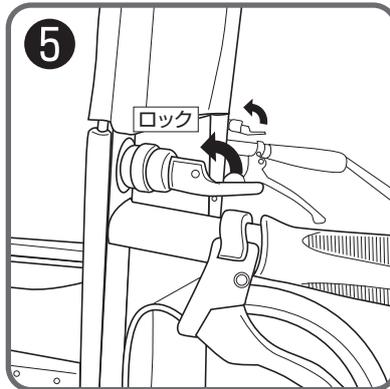


このような状態ではロックが掛かっていません。ロックレバーを回転させ、溝にはめてください。

④ ヘッドサポートを取り付けます。



⑤ ロックレバーのロックを確認します。



⚠ 注意

- バックサポートに重い物を引っ掛けないでください。(車いすが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。)
- 車いすを拡げる時に、座パイプの横の下に、手や指を入れないでください。(パイプに手や指を挟んでケガをする原因となります。)

してはいけない

⚠ 注意

- 車いすを拡げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。(パイプが曲がったりして、転倒・転落事故等の原因となります。)
- リクライニングの連結バーのノブネジは、確実に固定してください。(外れて、転倒・転落事故等の原因となります。)
- リクライニングのヘッドサポートロックを確実にかけてください。(外れて、転倒・転落事故等の原因となります。)
- 必ずヘッドサポートを取り付けてご使用ください。(パイプ差込口で手や頭にケガをする原因となります。又、フレーム強度が低下し、破損の原因となります。)

していただく

⚠ 警告

- バックサポート折りたたみのロックレバーにかばんなどを引っ掛けないでください。

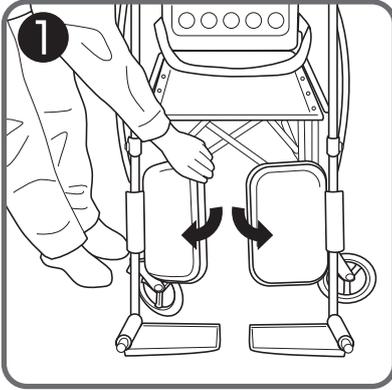
してはいけない

折りたたみ方

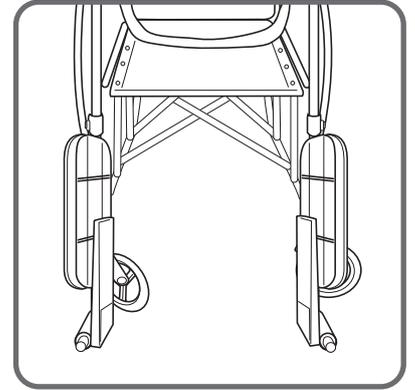
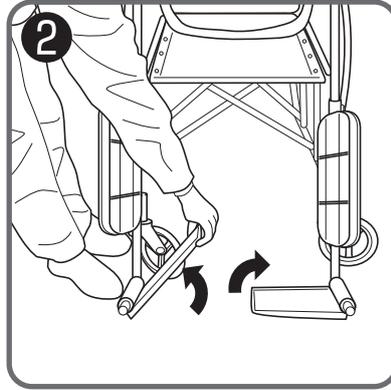
※対応型式は、P.5の「型式別機能一覧」にてご確認ください。

対応型式 **D**

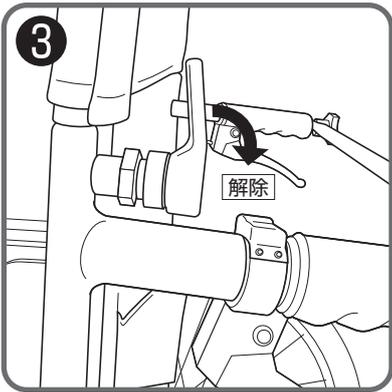
① ふくらはぎパットを回転させます。



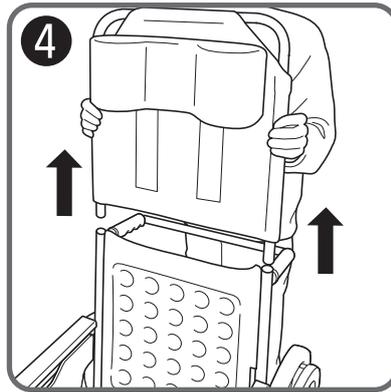
② フットサポートを跳ね上げます。



③ ロックレバーを倒します。



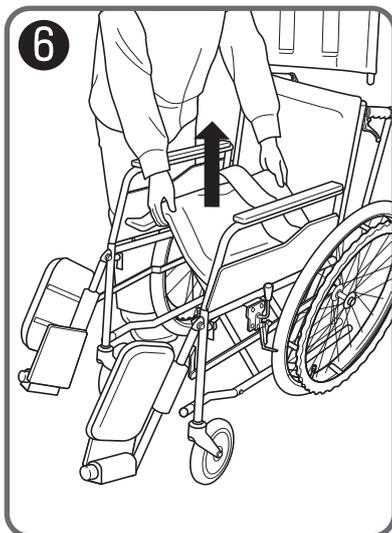
④ ヘッドサポートを外します。



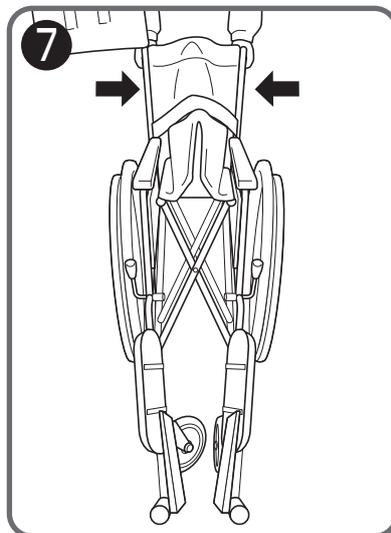
⑤ ノブネジを緩め、連結バーを外します。



⑥ シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げます。



⑦ 左右のグリップを持ち内側にたたみます。



⚠ 注意

- 車いすを折りたたむ際には、バックサポートのポケットの中に物が入っていないことを確認してください。
(ポケットの中の物を破損したり、車いすの故障の原因となります。)

していただく

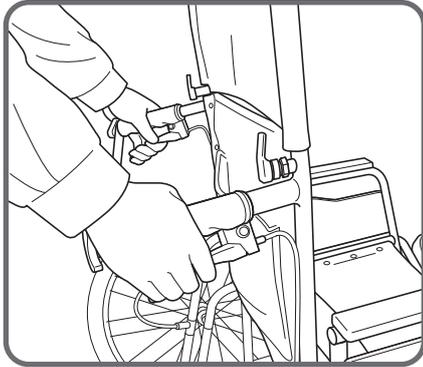
安全にお使いになるための使用方法

バックサポートリクライニング

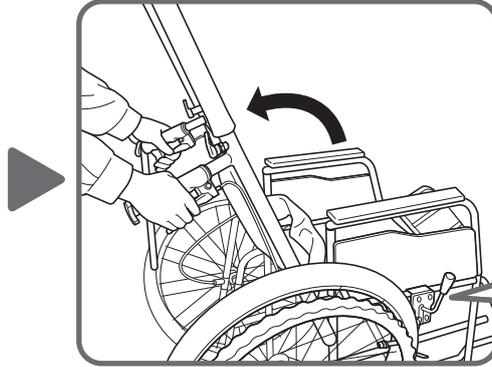
対応型式 D

- バックサポートの角度を調整することにより、身体状態に応じて合わせるすることができます。

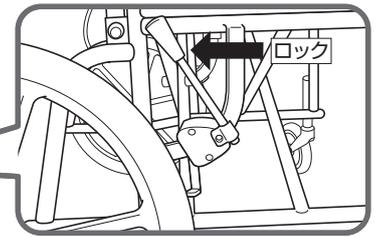
リクライニングレバーを両側握ります。



バックサポート角度を調整し、位置が決まったら、リクライニングレバーを離します。



【注意】
操作は駐車用ブレーキをロックして行ってください。



警告

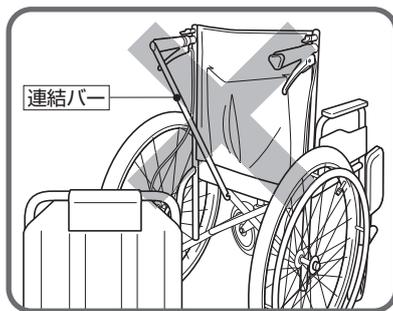
- リクライニングの角度調整をする時は、駐車用ブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

警告

- リクライニングレバーを左右同時に握りながら角度調整してください。
(転倒・転落事故等の原因となります。)

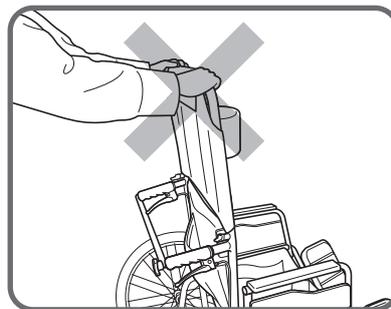
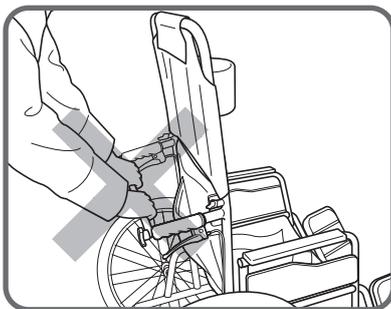
していただく



注意

- リクライニングの連結バーを外したまま、使用しないでください。
(転倒・転落事故等や車いすの変形などの原因となります。)
- リクライニングのヘッドサポートを外したまま、使用しないでください。
(転倒・転落事故等の原因となり大変危険です。)

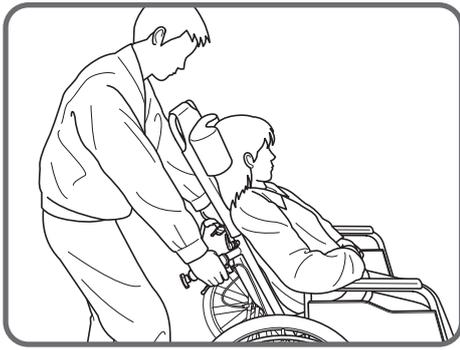
してはいけない



注意

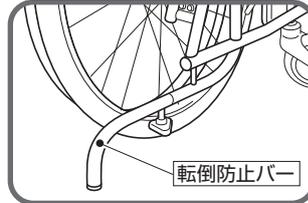
- リクライニング車いすの連結バー・ヘッドサポート部を持って、走行しないでください。
(外れたりして、転倒事故等の原因となります。)

してはいけない

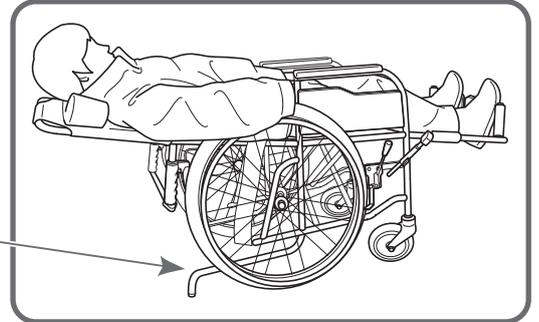


- 車いすに使用者が乗っている状態で、リクライニング操作する時は、使用者の体重がバックサポートにかかっていますので、介助者はしっかり支えて行ってください。(操作したときに、急にバックサポートが倒れパイプで顔などを打ってケガをする恐れがあります。)

- フラット状態で使用する場合は、バランスを崩し後方に転倒する恐れがあります。危険防止のために、転倒防止バーをご使用ください。



転倒防止バー



⚠ 注意

- 介助者の方は、人が乗った状態でリクライニングしたまま、放置しないでください。(バランスを崩し、転倒事故等の原因となります。)

してはいけない

⚠ 注意

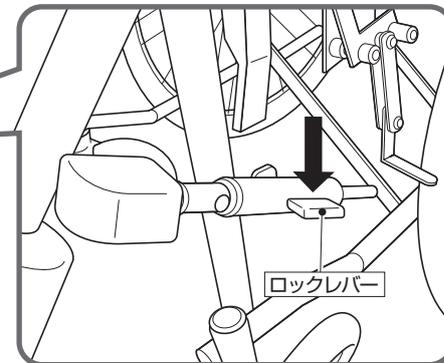
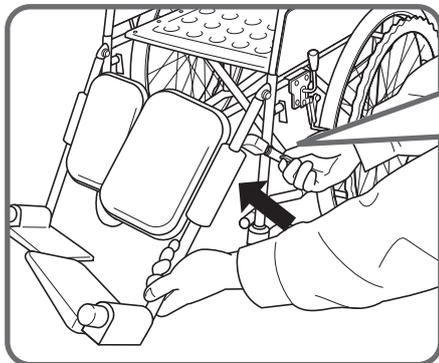
- リクライニングした状態で、バックサポートの上に乗らないでください。

してはいけない

フット・レッグサポートエレベーター

対応型式 **D**

- 使用者の身体状態に応じて、角度を調整することができます。ロックレバーを押した状態で、フットパイプを上げ角度を調整してください。



ロックレバー

⚠ 注意

- エレベーターのフットサポートに足が乗った状態で調整する場合は、フットサポートパイプをしっかり支えて行ってください。(ロック解除時に、手をパイプに挟んでケガをする原因となります。)

していただく

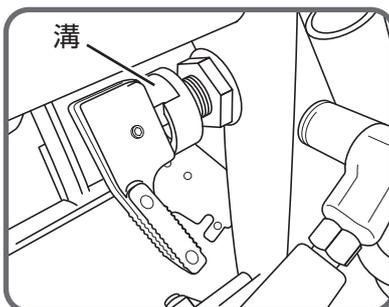
アームサポートの着脱

対応型式 **D**

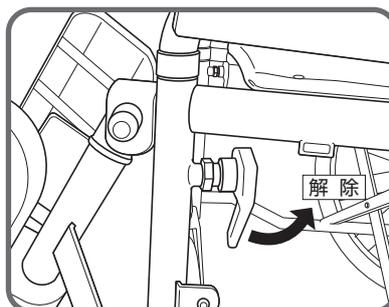
- 両側のアームサポートが取り外しできるので、横からの乗り移りがしやすくなります。
- アームサポートを取り付ける際は、確実にロックされていることを確認してください。

ロックレバーを起こします。

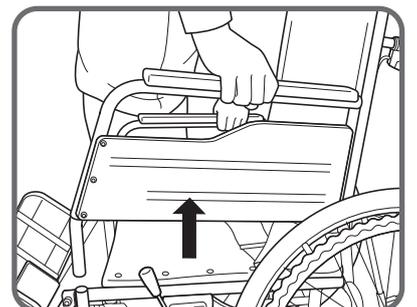
アームサポートの中央部を上を持ち上げて外します。



溝



解除



このような状態ではロックが掛かっていません。ロックレバーを回転させ、溝にはめてください。

- 取り付けは、取り外しと逆手順にて行ってください。
- ※前側のパイプから入れると、はめこみやすいです。

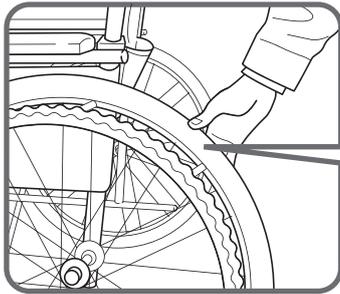
使用方法

ご使用前に

■ご使用前に、安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- ・タイヤの摩耗・亀裂はないか。
- ・タイヤの空気圧は適正か。
- ・駐車用ブレーキに異常はないか。
- ・駐車用ブレーキをロックした時、駆動輪・主輪が回転しないか。

対応型式 **A B C D**
 適正空気圧
350kPa
 (3.5kgf/cm)

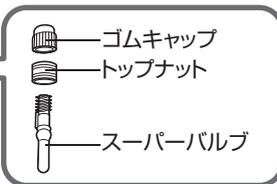
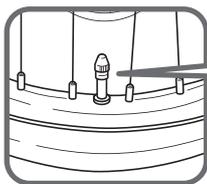


タイヤを親指で押し、容易にへこむ場合は、自転車用空気入れで空気を補充してください。



タイヤの空気バルブのトップナットが緩んでいないか確認してください。

タイヤの空気がすぐに抜けるときは、スーパーバルブを交換してください。



警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
 (駐車用ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動き、事故等の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。)

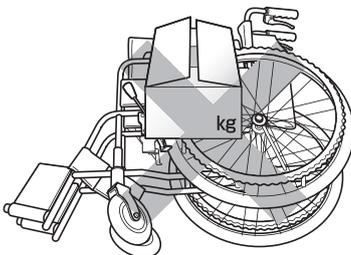
してはいけない



警告

- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。
 (転倒・転落事故等の原因となります。)

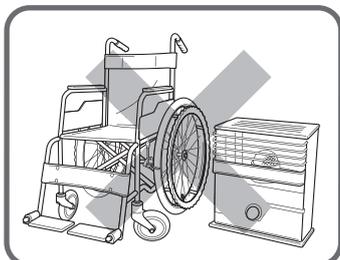
してはいけない



注意

- 車いすを横向きに倒して、上に物を置かないでください。
 (重みで車輪フレームが曲がったりして、故障の原因となります。)

してはいけない



注意

- 火気の近くに置かないでください。
 (タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。)

してはいけない

注意

- 車いすで荷物を運んだりしないでください。

してはいけない

乗り方・降り方

警告

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ず駐車用ブレーキをロックしてください。（車いすが動き、転倒・転落事故等の原因となります。）

していただく

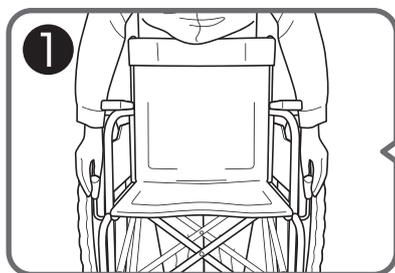
注意

- 車いすの乗り降り、路面の平坦な場所で行ってください。（車いすが動いてバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。）

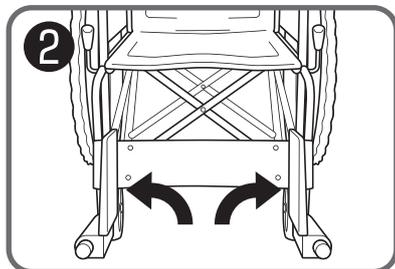
していただく

乗る時

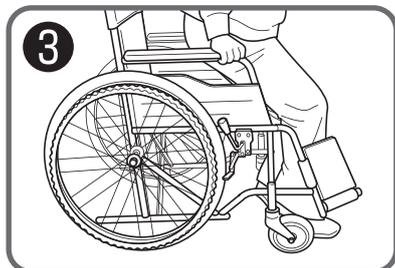
- 1 駐車用ブレーキを両側ロックします。



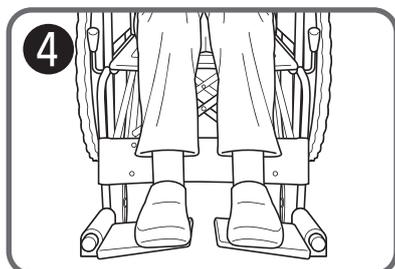
- 2 フットサポートを両側上げます。



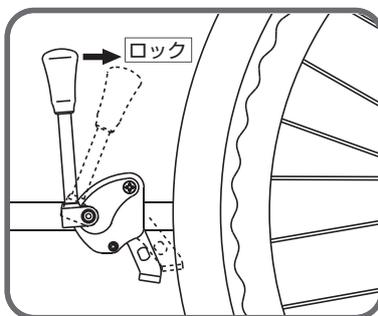
- 3 両手で、アームサポートを持ちゆっくり座り込みます。



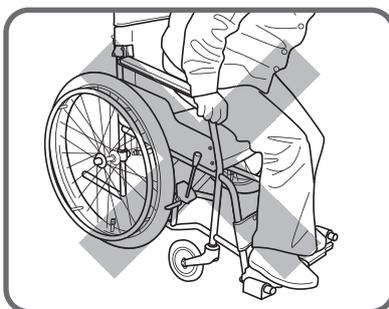
- 4 フットサポートに足を乗せます。



駐車用ブレーキ

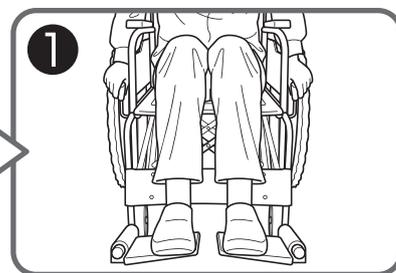


※イメージ図:KK-T550M*、T551M*、T555M*、T556M*、T553MB

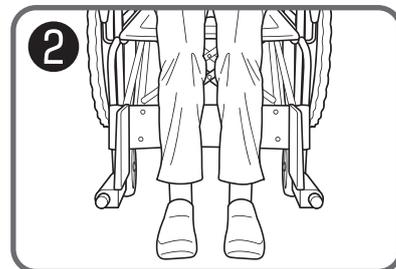


降りる時

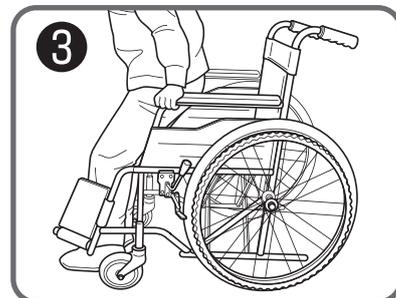
- 1 駐車用ブレーキを両側ロックします。



- 2 フットサポートを上げ、足を下ろします。



- 3 両手で、アームサポートを持ちゆっくり立ち上がります。



警告

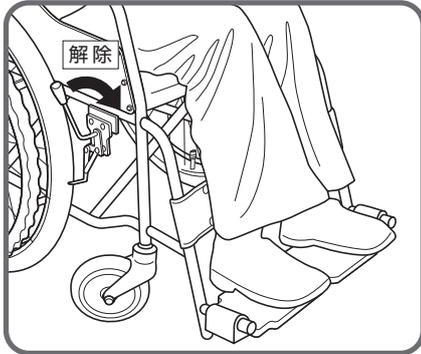
- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。（車いすがバランスを崩し、転倒・転落事故等の原因となります。）

してはいけない

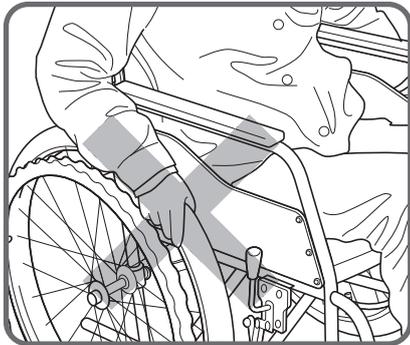
動かし方

(自走用車いすの場合)

駐車用ブレーキロックを解除します。



ハンドリムを握り車輪を
回転させ移動させます。



注意

- タイヤを持って車いすを操作しないでください。
(駐車用ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。)

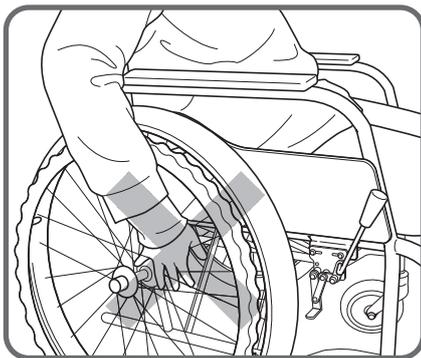
してはいけない



注意

- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
(摩擦で手にケガをする恐れがあります。)

してはいけない



注意

- 走行中、身体を乗り出さないでください。
(バランスが不安定になり、転倒・転落事故等の原因となります。)

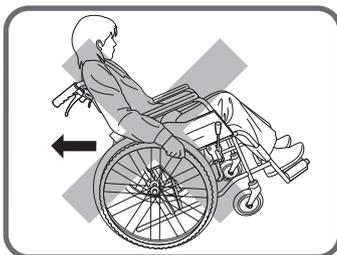
してはいけない



注意

- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
(手や指をはさんで、ケガをする原因となります。)

してはいけない



注意

- バックしながら急停止しないでください。
(転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない



注意

- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。
(バランスを崩し、前に転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない

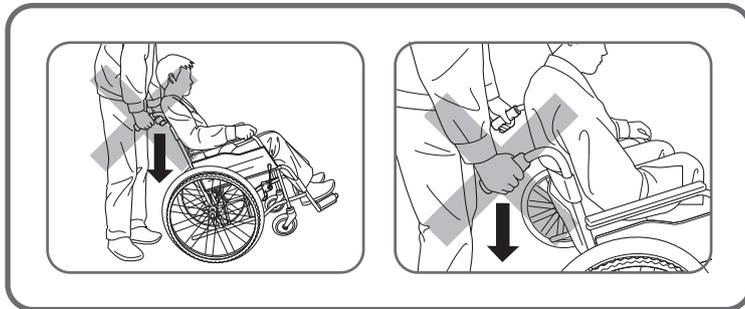
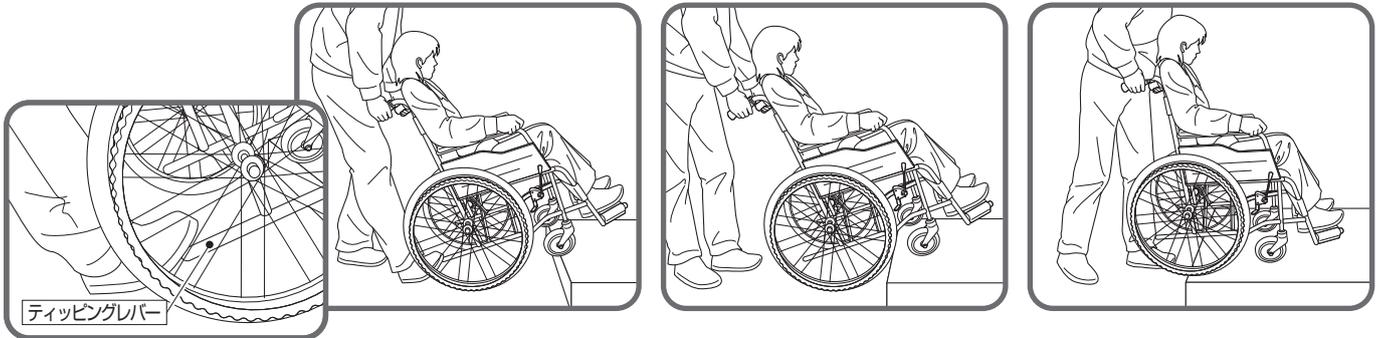
介助の仕方

次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者の方が付き添ってください。

- ・坂道の登り下り
- ・踏切の横断
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・悪路
- ・電車への乗車、下車
- ・段差乗り越え
- ・路面が片側に傾斜しているところの走行

介助者援助をお願いしてください。

介助者の方は、段差を乗り越える場合は、ティッピングレバーを踏んでキャストを上げ、段差に乗せてから、後輪を浮かし乗り越えてください。



⚠ 注意

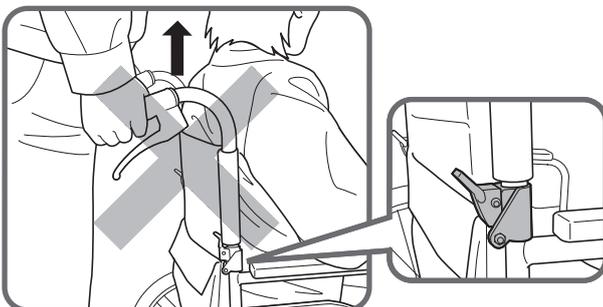
- バックサポートパイプやグリップのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。
(バックサポートパイプが曲がったり折れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない

⚠ 注意

- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
(使用者が車いすから転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない



⚠ 注意

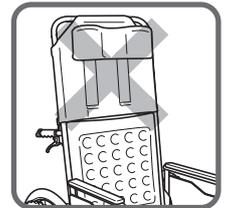
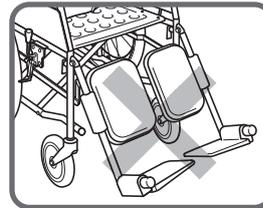
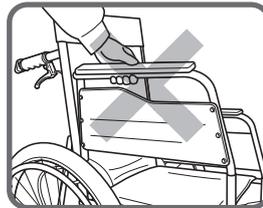
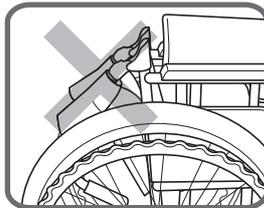
- バックサポートが折りたたみの場合は、使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。
(パイプが外れたりして、転倒・転落事故等の原因となります。)

してはいけない



■階段などで、使用者が乗ったままの状態、介助者に持ち上げてもらう場合
ベースパイプ・バックサポートの固定されている箇所を持って、4~5人で支えてもらってください。
車いすを持ち上げようとして次のような箇所は、持たないでください。

- ・バックサポートが折りたたみ式のバックサポートパイプ部
- ・レッグサポートが取り外し式のパイプ部
- ・アームサポートが跳ね上げ式のアームサポート部
- ・レッグサポートがエレベーター式フットパイプ部
- ・フット・レッグサポートがスイングアウト式のフット・レッグサポート部
- ・リクライニング式のバックサポートパイプ部およびヘッドサポートパイプ部



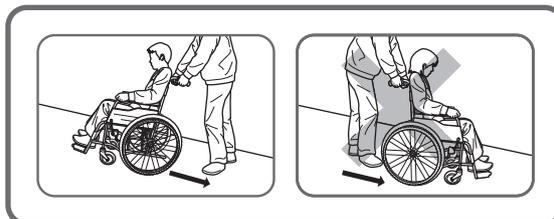
外出時の注意

介助者援助をお願いしてください。

坂道の登り下りでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただけて行ってください。

登り坂

下り坂

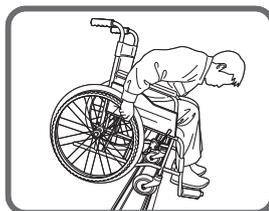
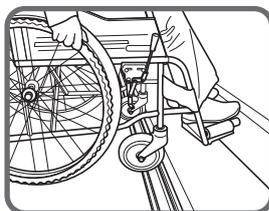
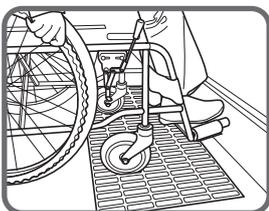


⚠ 注意

- 坂道を下るとき介助者は、下り坂の下側に立ち、確認しながら後ろ向きにゆっくりと走行してください。
(前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

介助者援助をお願いしてください。



⚠ 警告

- 側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただけて行ってください。
(車輪が溝にはまって転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

⚠ 注意

- 側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。
(車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転倒・転落事故等の原因となります。)

していただく

【介助者の方へ】

⚠ 注意

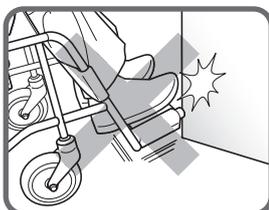
- 介助者の方は、移動中に使用者のつま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。

していただく

⚠ 注意

- 介助者の方は、フットサポートに使用者の足が乗っているか確認して走行してください。

していただく

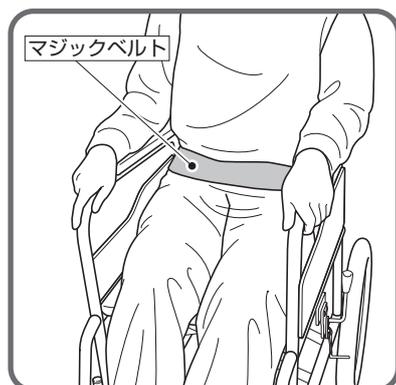


車いすのオプション

車いすをより使いやすくするために、いろいろなオプションが用意してあります。
(車いすにより取り付けできない場合がございます。販売店またはパラマウントベッドまでご相談ください。)

マジックベルト

KK-T606HBは標準装備



注意

- マジックベルト装着機種は、必ずベルトを締めてください。
(衝撃などで転落し事故等の原因となります。)

していただく

注意

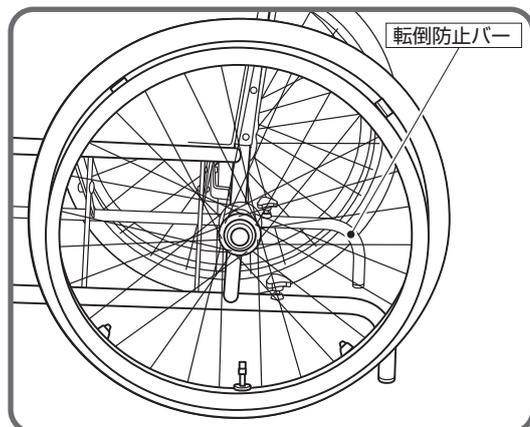
- マジックベルトの場合は、糸くずや汚れを取り除いてください。
(粘着力が弱くなり衝撃を受けた時に外れ、転落事故等の原因となります。)

していただく

使用者が、車いすから転落したり、ずり落ちるのを保護します。

転倒防止バー

KK-T606HBは標準装備

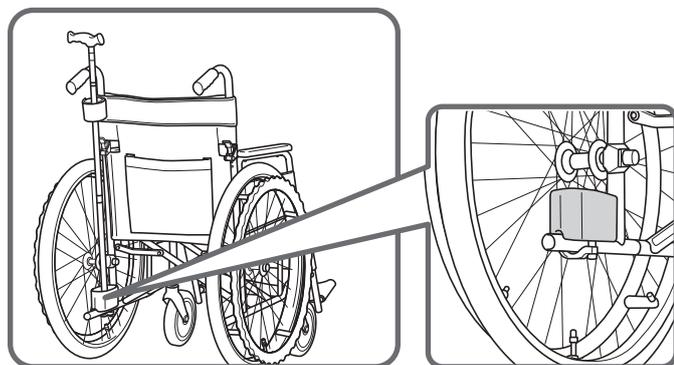


車いすが後方へ倒れることを防止します。

その他にも

- IVポールホルダー
 - 酸素ボンベホルダー
 - 着せ替えクッション
 - 延長ブレーキレバー
- などご用意しております。
詳しくは、カタログをご覧ください。

杖入れ



車いす後方に、杖を収納することができます。

JIS規格について

参考のため抜粋、整理して記載しているものです。

詳細な内容や正確さを必要とする場合には必ず、JIS T 9201:2016 本文をご参照ください。

日本産業規格 JIS T 9201:2016「手動車いす」により、自走用標準形車いす及び介助用標準形車いすが規定されています。

この取扱説明書の用語、寸法などはこのJIS規格に基づいています。(一部、従来の表記も併用しています)用語・寸法の定義は以下のようになっています。

車いすの種類について

自走用標準形：一般的に用いる自走用車いすで、後輪にハンドリムを装備し、バックサポートの種類は固定式、着脱式、折りたたみ式及びそれらと同等の方式であり、特別な座位保持具はつかず、任意にバックサポート角度が変えられないもので、前輪はキャスト、後輪は大径車輪(*)の4輪で構成したもの。日常生活用で特殊な使用目的のものは除く。また、モジュラー式車いすを含み、各部の調節、脱着及びフレームの折りたたみ方式は限定しない。

介助用標準形：一般的に用いる介助用車いすで、特別な座位保持具やハンドリムはなく、バックサポートの種類は固定式、着脱式、折りたたみ式及びそれらと同等の方式であり、任意にバックサポート角度が変えられないもので、前輪はキャスト、後輪は中径車輪(*)以上で構成したもの。シートベルトを装備しているものもある

注(*) 車輪の大きさで“小径車輪”は呼び12未満、“中径車輪”は呼び12以上18未満及び“大径車輪”は呼び18以上を指す。

各部の名称について

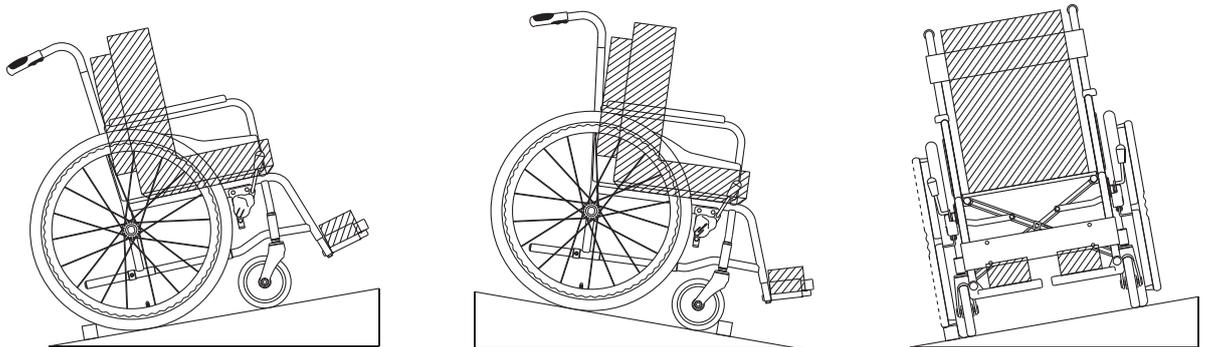
用語	意味
シート	座【でん部・大たい(腿)部の支持装置】
バックサポート(バックレスト)	背の支持装置
フット・レッグサポート (レッグサポート)	下たい(腿)・足部の支持装置
フットサポート(フットレスト)	足部の支持装置
レッグサポート(レッグレスト)	下腿の支持装置
アームサポート(アームレスト)	腕の支持装置
車輪	車いすを構成する車輪で、駆動輪、主輪、キャスト及び補助輪がある
駆動輪	自走用車いすの駆動用車輪
主輪	介助用車いすの主車輪
キャスト	自由に方向が変わる車輪付き装置
ハンドリム	駆動輪に取り付けられ、手で操作して駆動輪を回転させるための金属又は合成樹脂製の輪
ブレーキ	車いすを停止又は制動するための装置
駐車用ブレーキ	車いすを停止させておくためのブレーキ
制動用ブレーキ	車いすを制動するためのブレーキ
手押しハンドル(グリップ)	介助者が車いすを後方から押すときなどに使う取っ手
グリップ	手押しハンドルの握り
ティッピングレバー	介助者が車いすの前輪上げをするときに踏むためのレバー又はプレート

寸法について

用語	定義
寸法基準点	車いす寸法の基準となる点で、バックサポート取付けフレーム前面とシート取付けフレーム上面との交点。
駆動輪(主輪)径	駆動輪又は主輪の最大直径(呼びでもよい)。
キャスト径	キャスト輪の最大直径(呼びでもよい)。
前座高	床からシート取付けフレーム上におけるシート前端上面までの垂直距離。
後座高	床から寸法基準点までの垂直距離。
シート奥行	寸法基準点からシート取付けフレーム上におけるシート先端までの距離。
シート幅	使用時におけるシートの有効幅 (サイドガードの内寸法、シートサイドパイプ内寸法、シートの最大幅など)。
バックサポート高	寸法基準点からバックサポート取付けフレーム上におけるバックサポート上端までの距離。
フットサポート・シート間距離	フットサポート外側上面からシート取付けフレーム上におけるシート前端上面までの距離。
アームサポート高	寸法基準点からアームサポート上端面までの垂直距離。
全高	使用時における車いすの床から最高点までの垂直距離。
全幅	使用時における車いすの左右外側の最大寸法。
全長	使用時における車いすの前後方向の最大寸法。
折りたたみ全幅	折りたたみ時における車いすの左右外側の最大寸法。

静的安定性の試験方法について

JIS T 9201:2016 静的安定性試験はa)の方法により行っております。
(参考として、a)の方法は以下のようにしております)



ねじの種類について

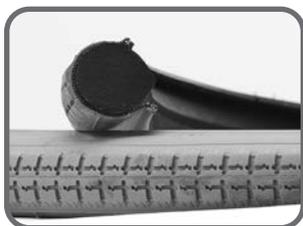
各部には一般用メートルねじを使用しておりますが、次の部分には他の種類のねじを使用しております。

- ・シートビス……………タッピンネジ
- ・ミニタックルカバー部……………タッピンネジ
- ・主軸(駆動輪・主輪)部……………ユニファイネジ (UNF¹/2)

空気圧管理不要タイヤメンテナンス方法

空気圧管理不要タイヤ

〈ハイブリッドタイヤ〉



対象機種

KK-T503HB
KK-T513MB
KK-T513LB
KK-T541M*、T543MB
KK-T541L*、T543LB
KK-T551M*、T553MB
KK-T546M*
KK-T556M*
KK-T606HB

安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- ・タイヤ表面の摩耗・亀裂。
- ・スムーズな回転、異音 等。
- ・車輪のホイールの傷の有無。
- ・駐車用ブレーキでロックした際、駆動輪・主輪は回転しないか。
- ・スポークの緩み、損傷 等。

※空気圧管理不要タイヤの交換目安は、お買い上げ後5カ年です。
(使用環境、使用頻度、使用状況による。)

※空気圧管理不要タイヤには、ウレタン素材を使用している物があります。
この素材は、水と反応し分解する(加水分解)性質があり、その結果タイヤのヒビワレ、
表面の剥離など発生する場合があります。メンテナンスの際には、十分に水分を拭き取ったあと
風通しの良い日陰でよく乾燥させてください。(直射日光は避けてください。)

※保管時にも、高温多湿、雨、直射日光に注意してください。

もしこんなトラブルが発生したときは

車いすをご使用されていて「故障かな」と思うトラブルが発生したら、修理を依頼するまえに下記項目を確認してください。

ト ラ ブ ル	確 認 点	対 処
タイヤの空気が少ない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください (P.18参照)
空気を入れてもすぐに抜ける	・タイヤの空気バルブのトップナットは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください (P.18参照)
	・スーパervalブが劣化していませんか	スーパervalブを交換してください (P.18参照)
走行操作が重い	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください(P.18参照)
	・駆動輪・主輪・キャストに髪の毛、ビニール等が巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャスト(前輪)が片べりしていませんか	販売店または、パラテクノコールセンター(P.29参照)まで、お問い合わせください。
バックサポート折りたたみのロックピンが入らない	・車いすを払げて、バックサポートを起こしていませんか	車いすを折りたたんで、行ってください (P.8参照)
制動用ブレーキが効かない	・ワイヤーのねじれ、ひっかかりがありませんか	ワイヤーのねじれを調整してください
	・ワイヤーの遊びが多くありませんか	販売店または、パラテクノコールセンター(P.29参照)まで、お問い合わせください。
駐車用ブレーキが効かない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください (P.18参照)
	・タイヤは、摩耗していませんか	販売店または、パラテクノコールセンター(P.29参照)まで、お問い合わせください。

■異常のある際は、直ちに使用を中止してください。

車いすのお手入れの方法

■清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。
揮発性剤（シンナー・ベンジン・アルコール類）では、清掃しないでください。
変色したり、劣化の原因となります。
ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部に水滴が残り、錆の原因となります。

■タイヤの空気圧は、最適空気圧を適正に保ってください。
空気圧が低いときは、補充してください。

■タイヤには、ひび割れを防ぐ為に老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン (O₃)
- 光線(日光)、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス（自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤（錆落とし含む））。

■車いすに異常がある場合は、パラテクノコールセンター（P.29参照）までお問い合わせください。
そのままの状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤの劣化・ひび割れ・空気漏れ
- 各部固定部品の変形
- ボルト・ナット・ビスの緩み
- フレームのひび割れ・曲がり・ガタつき
- 駆動輪・主輪・キャストの変形
- 制動用ブレーキ・駐車用ブレーキの効き具合

保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。
故障の原因となります。

- 雨に濡れるようなところ
- 直射日光が当たるようなところ
- 湿気の多いところ
- 高温室になる場所
- 炎天下なところ

注意

- 保管する場所には十分注意してください。

していただく

アフターサービスについて

1. 保証書

保証書は、この取扱説明書の裏表紙についておりますので、必ず「販売店・お買い上げ日」などの記入をお確かめになり、記載内容をよくお読みいただき大切に保管してください。保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

販売店名・お買い上げ日の記入がない場合は、品番・販売店・お買い上げ日が確認できるように、製品をお買い上げの領収書などを保証書と一緒に保管してください。

2. 修理を依頼されるとき

取扱説明書の「もし、こんなトラブルが発生したときは」（27ページ参照）に従って調べてください。それでも直らないときは、お買い上げの販売店または弊社製品の修理受付窓口であるパラテクノコールセンター（下記参照）までご連絡ください。

■連絡していただきたい内容

- 品名、品番、製品識別表示ラベルの番号（ラベルの貼付位置は1ページ参照）
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容（できるだけ詳しく）
- 施設名、お名前、ご住所および電話番号

■消耗部品について

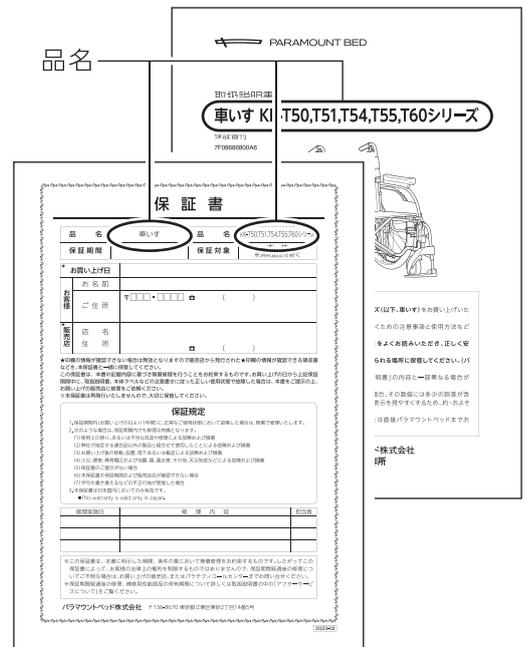
タイヤ・シート・ブレーキ・制動用ブレーキ用ワイヤー・ブレーキゴムなどは消耗部品です。

■保証期間内は

保証書の記載内容に基づき無償で修理いたします。ただし、保証期間内でも修理が有償になる場合があります。詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間が過ぎているとき

修理により使用できる製品については、ご希望により有償で修理いたします。



3. 部品の最低保有年数は

弊社ではこの車いすの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間を製造打ち切り後8年としております。

4. アフターサービスについてご不明な場合

お買い上げの販売店、またはパラテクノコールセンターまでお問い合わせください。

パラテクノコールセンター ☎ 0120-54-8639

受付時間：平日 8:00～18:00 / 土・日・祝日 9:00～17:00（年始は休業いたします）

【パラテクノ株式会社について】 弊社製品の修理や保守点検などの各種サービスを実施する会社です。

パラマウントベッド株式会社

本社	〒136-8670	東京都江東区東砂2丁目14番5号	☎ (03) 3648-1111 (大代)
東京支店	〒136-8670	東京都江東区東砂2丁目14番5号	☎ (03) 3648-1171 (代)
札幌支店	〒060-0062	札幌市中央区南2条西13丁目318番地11	☎ (011) 271-1181 (代)
仙台支店	〒984-0015	仙台市若林区卸町2丁目3番地の3	☎ (022) 239-5211 (代)
さいたま支店	〒336-0967	さいたま市緑区美園3丁目23番1	☎ (048) 878-0100 (代)
横浜支店	〒194-0004	東京都町田市鶴間5丁目3番33号	☎ (042) 795-8800 (代)
名古屋支店	〒461-0001	名古屋市東区泉1丁目20番17号	☎ (052) 963-0600 (代)
大阪支店	〒550-0001	大阪市西区土佐堀2丁目3番33号	☎ (06) 6443-8791 (代)
高松営業所	〒761-8031	高松市郷東町223番1	☎ (087) 881-8900 (代)
広島支店	〒733-0011	広島市西区横川町3丁目8番5号	☎ (082) 293-1311 (代)
福岡支店	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東3丁目14番20号	☎ (092) 461-1131 (代)

保証書

品名	車いす	品名	KK-T50,T51,T54,T55,T60シリーズ
保証期間	1年間	保証対象	本体 ※消耗部品を除く

★ お買い上げ日			
お客様	お名前		
	ご住所	〒□□□□ - □□□□ ☎ ()	
★ 販売店	店名		
	住所	☎ ()	

★印欄の情報が確認できない場合は無効となりますので販売店から発行された★印欄の情報が確認できる領収書などを、本保証書と一緒に保管してください。

この保証書は、本書の記載内容に基づき無償修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から上記保証期間中に、取扱説明書、本体ラベルなどの注意書きに従った正しい使用状態で故障した場合は、本書をご提示の上、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

※本保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

保証規定

- 保証期間内(お買い上げの日より1年間)に、正常なご使用状態において故障した場合は、無償で修理いたします。
- 次のような場合は、保証期間内でも修理は有償となります。
 - 使用上の誤り、あるいは不当な改造や修理による故障および損傷
 - 弊社が指定する適合品以外の製品と組合せて使用したことによる故障および損傷
 - お買い上げ後の移動、設置、落下あるいは輸送による故障および損傷
 - 火災、煙害、異常電圧および地震、雷、風水害、その他、天災地変などによる故障および損傷
 - 保証書のご提示がない場合
 - 本保証書の保証期間および販売店名が確認できない場合
 - 字句を書き換えるなどの不正行為が発覚した場合
- 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
 - This warranty is valid only in Japan.

修理実施日	修理内容	担当者

※この保証書は、本書に明示した期間、条件の基において無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明な場合は、お買い上げの販売店、またはパラテクノコールセンターまでお問い合わせください。
※保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは取扱説明書の中の「アフターサービスについて」をご覧ください。

パラマウントベッド株式会社 〒136-8670 東京都江東区東砂2丁目14番5号